

令和元年度第1回狭山市協働推進協議会会議録

開催日時 令和元年8月26日(月)
午前10時00分から午前12時00分まで

開催場所 狭山市役所 701・702会議室

出席者 天谷委員、安藤委員、小川委員、後藤委員、豊泉委員、中村委員
南部委員、水村委員、本橋委員、横山委員、小山委員、嶋田委員
宮地委員、石川委員、田口委員

欠席者 なし

事務局 小出市民部長、田中市民部次長、
濱田協働自治推進課長、原協働自治推進課主幹

傍聴者 なし

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員自己紹介
- 5 正副会長の選出 小山会長・中村副会長を選出
- 6 正副会長あいさつ
- 7 議題

(1) 協働によるまちづくりについて
(事務局より説明)

〈質疑応答・意見〉

会 長 協働によるまちづくり条例が施行されたが、私たちは条例を作ったままにはしたくないと思っている。条例の成果を出すために、委員のみなさんには、それぞれの立場から、協働によるまちづくりを進めていくにあたって、実行したいことなどご意見があれば、おひとりずつ伺いたい。

委 員 私は、地元のもののおいしいということが、本当にアピール出来ているのかと考えながら商品開発を進めている。良い商品だと認めていただくためにも、自分たちの地域にプライドを持って、狭山市だからできるというものを作り、地域ブランドを高めていきたいと思っている。

委員 市民に協働とは何かを説明する前に、行政が何をしているのかを理解してもらうためにも、職員に市民の集まりなどに顔を出して、自分の地域やコミュニティを意識してもらいたいと感じている。

そして、市民の一番身近な施設である、例えば公民館などが、人とアイデアがあればすぐ実践できるような受け皿として、団体登録などせずとも、気軽に利用できると、活動へのきっかけがつかみやすくなり、協働の目指すところに近づいていくかと思う。

委員 行政の職員だった時は、協働の意識をもって仕事をしていたが、当時から市民参加という言葉は盛んに使われてきた一方で、職員が市民の活動に関わっていく行政参加という意識が欠けていたと感じていた。条例にも規定されているように、行政も動いて、お互いの信頼関係を築くためのパートナーシップの構築が重要だと思う。

委員 この協議会において、協働・起業となると公共的な面、ボランティア的な面が優先されるのではないかと思い、関わるスタンスが難しいと感じている。公共性もからめながら、民間事業者も活用する部分を考えていければ良いと思う。

委員 協働の担い手が誰なのかという問題は必ず発生する。どうしても、時間的経済的に余裕のある高齢者が多くなり、若い社会人や学生が関わるのがなく、一部の世代の意見が反映されやすくなってしまふ。そうならないためにも、若者が協働の枠に入っていけるような仕組みが必要である。また、学生よりも、もっと早く小中学生の意識に働きかけることも必要だと思う。

委員 自分の活動は継続性が前提で、高付加価値のものを提供するように心掛けている。地元の間人は狭山の価値に気づきにくいものだと感じている。若い世代からの意見を伝えていきたい。

委員 自分が10年後の生活で何が幸せかを考えると、友人が近くにいつでも会話ができる場所があると良いと思い、地域での活動を始めた。地域でのサロンには一人で訪れる高齢者が多いが、そのような方たちは一つの集合集宅などに住まれたほうが、お互い顔が見られる関係になり、住んでいる人も支援する人にとっても良いのではないだろうか。世田谷区では、母子家庭の方も集合住宅に住み、子どもにも目が届くなどお互いにとって良い関係を築いている例もあるので、一つの考え方だと思う。

委員 今、情報を SNS など文字で伝えることが多いが、人と人とが顔を合わせて会話をする方が伝わる力が強いと思い、現在、対話の場を設ける事業を続けている。ぜひ行政の職員も参加して、市民との関係性を作って欲しい。条例ができたがその仕組みを使うのは人なので、人と人とが情報共有できる機会があると良いと思う。

委員 市内のイベントなどを、検索しても見つからないことが多い。多くの市民の皆さんが頑張っていることが、表面に出てこないことは、非常に残念だと思っている。

委員 市のブランディングは必要だが、それを大きく発信していかなければならないという思いがある。また、市民が例えば協働事業の相談など、市民の声を安心して拾ってもらえる場がないと感じている。アイデアを形にできるための場所を作ることも、協働の一つの目的ではないかと思う。

委員 まちづくり活動がボランティアだけではなく、地域の産業として成立するような、また、例えば環境や福祉、農業など各分野の課題と課題を掛け合わせることによって、解決に導けるような協議の場が生まれると良いと考えている。

委員 子どもに農業体験事業をしており、子どもたちに野菜の味を知ってもらいたいという思いで活動している。皆さんと一緒に食に対して考えていければ良いかと考えている。

委員 自分たちが暮らしやすい狭山を作りたいという思いで活動している。狭山に住むすべての人に、居場所と役割があるようになれば良いと考えている。行政も内部で横につながっていければ、市民と行政が平等に楽しいことができそうだと思う。

委員長 第1回目の会議として、かなり有意義な話をいただいたと思う。皆さんの意見の中で実現できそうなことは、今後の宿題として受け止めさせてもらい、次回以降協議できればと思う。

(2) その他

事務局 委員の皆さんからお話いただいた内容を、市として協議し、次回の協議会でもう少し具体的なものを提案できればと考えている。

8 閉会